

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370105516		
法人名	有限会社 幸生		
事業所名	グループホーム明日香		
所在地	岡山県岡山市東区九幡44-5		
自己評価作成日	令和4年11月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370105516-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370105516-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和5年1月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

経験豊富なスタッフが加わり、さらに支援の充実を目指すと共に、入居者様が穏やかに落ち着いて過ごせるよう日々のコミュニケーションを大切に、事業所の理念(笑顔・挨拶・誠実・思いやり)を実践しています。安心して生活できるよう、自分は何をすれば良いか?自分で課題を見つけチームケアに結び付け、定期的に勉強会を開催して、スキルアップを目指しています。よりよい支援ができるよう職員一同頑張っていきたいと思えます。食事等にも気をつけ、家庭での味を大事にし、好みの物を取り入れるなどして提供しています。現在は、コロナ禍のため制限がありますが、その中で家族・地域の方の交流を大切にしながら気軽に立ち寄れる場所として、地域の中で根付いて行けたらと思います。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

比較的交通量が少ない事業所立地の利点を活かし、散歩などの外出を通じて、日常的に自然や四季を感じる機会の多い暮らしを実現させている。地域住民とも良好な関係性を築いており、農作物等の差し入れも多い。食事は事業所職員が調理した温かいものを提供している。月間の献立は定めず、差し入れの新鮮な野菜や冷蔵庫の中身に応じてその日のメニューを考案し、とても家庭的な方法で運営している。日々の過ごし方として、朝食は利用者が起きた時間に応じて個々に提供したり、日課の散歩に行く・行かない、入浴のタイミングなど、利用者自身が過ごし方を選択する場面が多く、事業所が決めたプログラムに画一的に当てはめるのではなく、「生活の主体者は利用者自身」と感じ取れる職員の接し方、暮らしの支援が特に印象的であった。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を共通理解し、職員同士・入居者・地域の方・来訪者に対して、挨拶・笑顔を忘れずそっと寄り添えるよう実践につなげている	理念は共有空間2箇所に掲示している。入職時の説明や定期的な振り返りは十分には取り組めていないとのことだったが、利用者に対する表情や丁寧な言葉遣いから、理念に沿ったサービスの提供が感じ取れた。	入職時における理念周知の工夫や、職員全体で理念を掘り下げて話し合う機会作りなど、更なるケアの質向上に向けた具体的な取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が手作りの野菜・花等を持参して下さったり、季節に合わせた花壇の手入れも行ってくれます。回覧にて当施設の様子をお伝えしています。	複数の近隣住民から日常的に農作物等の差し入れがある。地区回覧板に事業所便りを配布する取り組みは、コロナ禍で交流が減った中、少しでも事業所内の様子が地域に伝わる事を目的に、事業所から地域に掛け合い、昨年度から実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年はコロナ禍ということで、ボランティアの訪問もなくなり、会議等も書面会議とさせていただいていますが、理解していただけるよう情報配信をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域推進委員会において、2ヶ月ごとの行事報告・介護保険・入居者の様子等報告・共通理解して頂き、今後の支援につなげている。コロナ禍で書面会議とさせていただいていますが、当施設へのご意見・要望などの声を聞き、その都度対応している。感染状況を踏まえ開催も検討する。	コロナ禍にて書面開催となっているが、全利用者家族にも資料送付し、意見を求めている。民生児童委員から毎回、運営に対する意見があり、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の行事も中止で、運営推進会議も書面会議とさせていただいているが、その都度、包括、事業者指導課より助言等をいただいています	運営推進会議(書面開催)の機会を通じて、事業所の運営状況報告を行い、市町村担当者からは、地域内の福祉に関連する情報提供を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針を策定し、身体拘束廃止委員会を立ち上げて3か月に1回委員会を開催している。代表者・全ての職員が共通理解しており、安全に生活して頂けるよう工夫しています	繰り返し同じ言葉を発する利用者に対して、家族へ生活歴を再聴取したり、興味ある歴史図書を準備し読書タイムを設ける等、取り組んでいる。言葉による静止の問題意識について委員会で話し合った記録もあり、身体拘束をしないケアへの意識の高さが本事例から感じ取れた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行なわれないよう勉強会を開催し、職員同士支援方法を確認しながら常に注意をはらい、防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等について、研修会で学んではいるがこれからも学んでいかなければいけない。現在該当される方はいないが、折に触れ学ぶ機会を見つけ、理解し情報提供できるようにしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約又は改定等の際は十分な説明を行い、不安・疑問が生じないよう理解・納得をしていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に何でも話せる・相談できる雰囲気作りにも気を配っている。2カ月毎に家族に状況のお知らせを送っており、信頼関係も築けてきている。意見・要望は職員間で話し合いに反映させている	隔月で家族に送付する状況報告書は、担当職員がA4サイズの用紙に直筆で記載している。良い面ばかりではなく、機能低下面なども含め、生活の実情を伝える様に取り組みされている。	手書き報告書の良さは残しつつ、写真添付等、様子や生活の全体像がより伝わりやすい工夫によって、これまで以上に利用者、家族等の意見・要望が引き出せる取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は職員からの意見等、日々の申し送り、定期的に行われるミーティングにおいて個々の意見が出せるように配慮し反映させている	毎月実施する職員会議に代表者も出席し、職員が意見を伝える場となっている。昨年入社した介護職員から、季節行事の装飾に力を入れたいと提案があり、チームで構想を実現させた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員、個々の努力や実績状況を把握し、職員がやりがいを感じ向上心を持って働けるよう働き掛けています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員育成の重要性を認識している。全ての職員の質の向上を目指しており、ケアの技術面・利用者とのかわりについて指導を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設見学・職場内での仕事の悩み解消など、事業所外の人材との交流を作り意見交換したり、経験をケアに活かしサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の段階で、ご本人の困っている事・不安な事・何を望まれているか見極めよりよい関係づくりが出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様には当ホームを理解して頂き、困っている事・不安を取り除けるよう関係を築いていきます。要望等にもすぐ対応できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家庭的な雰囲気をお大切に安心して生活できる場であることを理解して頂き、家族の必要時は助言・情報交換を随時行えるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様はお客様であると同時に暮らしを共にする者同士の関係を築き共感と受容をお大切にしています。傾聴もお大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆をお大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は連携をお大切に、家族と本人の絆をお大切にしながら家族との連絡を密にして、共に支えていけるよう関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人にとって大切にしていらっしゃる思い出の人・場所との関係が途切れない様家族と連携し支援に努めています	コロナ禍で外出・面会制限も生じているが、玄関先での短時間面会や、電話の取り次ぎ等、感染対策に留意しながら馴染みの関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格・趣味を把握しよりよい関係が築けるよう配置等にも配慮し、ご利用者同士関わりが持てるよう支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用者が終了してもこれまでの信頼関係を大切にしながら必要に応じて相談・助言ができるよう支援に努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の気持ちを尊重し、寄り添いながらその人なりの暮らしが継続できる様に意向の把握に努め、困難な場合は本人本位に検討しています	入浴等、個別にコミュニケーションが図れる機会を大切に考え意向の把握に努めている。また、朝食の時間、散歩、日課など、利用者自身が過ごし方を選択する場面が日々の暮らしの中に多く設けられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	折に触れ会話の中から家族の方から情報を収集し、よりよいサービスが提供できるよう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態・残存能力の把握に努め自立支援ができるよう努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者がよりよく暮らすためにアセスメント・モニタリングを行い、必要関係者の意見アイデアが反映され現状に即した介護計画を作成しています	計画作成担当者が介護計画を作成する際は、事前に家族や職員に意見を求めた上で作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケア・実践・結果・気づきが記録にでき、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で外出は控えているが、ご利用者・ご家族のニーズに対して、必要時は、その都度相談し、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮し安全で豊かな生活を楽しむことができるよう、自立した生活の実現を支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人及びご家族の希望を大切にしています。身体状況に合わせ適切な医療が受けられるよう支援しています	提携クリニックの医師がかかりつけ医となり、月2回訪問診療を受けている。検査等で提携クリニックに受診が必要な場合は、職員が付き添っている。他院への受診は、基本的に家族対応を依頼する体制をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、在中看護職はおらず、必要な時は、担当医に連絡し、相談・助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際、安心して治療できるように、又できるだけ早期に退院できるように情報提供を行い病院関係者との関係づくりを行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況が重度化した時、又終末期の在り方について早期よりご本人・ご家族の思いを大切に話しあっております。事業所でできる事、方針を十分に説明し納得して頂いています。必要時は、地域の担当医と連携し、支援に取り組んでいます。	重度化や終末期のあり方について、入居契約時に書面を用いて説明している。身体機能低下等の状況変化は、その都度家族に伝え、随時意思を確認しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え職員一同、応急手当や初期対応への訓練を行い、実践力を身に付けています。また講習会等にも参加し、対応できるように取り組みます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、避難訓練・避難経路の確認を定期的に行っています(水害訓練も含む)	吉井川河口部に位置し、浸水想定区域にあたる本事業所は、火災想定に加えて、水害想定での避難訓練も定期的実施している。また、ハザードマップや避難場所の資料を玄関ロビーに掲示していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように言葉かけや対応に努めていき、勉強会を通し適切な言葉かけであるか確認しています。	事業所内にて権利擁護に関する研修を計画的に実施している。各居室に立ち入る際、利用者不在の場合でも、事前の断りと扉のノックを徹底している。訪問調査中も、職員のような言動が確認できた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご利用者が自己決定出来るような声かけ、本人の思い・希望が表現できるように場面づくりに職員一同気を配っています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の体調・気持ちを常に重視しご希望に沿った支援ができるよう努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ・入浴時の着替えも声かけにて一緒に用意し、自己決定を心がけています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、下膳等できることは行って頂き、メニューの希望も取り入れ、職員と一緒にテーブルを囲み食事を楽しむ支援を行っています	提供する料理は、事業所で職員が手作りしている。野菜を剥く等の下ごしらえを、利用者と共にやる事もある。朝食は個々の利用者の起床時間に合わせて提供している。随所に食事を楽しむ工夫が見受けられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量・栄養バランス等一人ひとりの状態に合わせて支援を行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員自身も口腔ケアの重要性を勉強会を通し理解し、ご利用者様にも口腔ケアの大切さを知って頂き、食後はご利用者に合わせ、声かけ・セッティング・介助と支援を行っています。必要な場合は、歯科医に相談もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに座って頂き、排泄を促すように職員間で排尿時間・パターンを把握しトイレ誘導を促し自尊心を配慮しながら爽快感が味わえるよう支援を行っています	現在、排泄面で誘導や介助を要する利用者は1名のみである。排泄チェック表を用い、本人の排泄パターンを把握した上で、定期的に声かけを行い、トイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便日・量・質を記録、自然排便を促すようヨーグルト・バナナ等、定期的に提供しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日3名、バランス良くゆっくり入って頂けるように支援を行っている。コミュニケーションがしっかり取れる場として、個々のお話をゆっくりと聞くよう対応している。希望があれば、シャワー等も対応していきます。	基本的に午後を入浴の時間帯としている。身体機能低下によって、湯船に浸かる事が難しい利用者には、シャワー浴の最中に足浴も並行して行う等、満足感が得られる様に配慮しながら実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の生活習慣・その日の体調に合わせて日中のお昼寝、また夜間安心して睡眠できるように空調・室温・水分等気を配っています。不穏時には寄り添い入眠を促しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご利用者が服用している薬について、目的・副作用・用法・用量について理解し誤薬を防ぐため、職員二人で確認・飲み忘れを防ぐために口に入れて飲み込むまで確認しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張り合いが持てるよう出来る事の支援(食事の下ごしらえ・洗濯たたみ・新聞たたみ・モップがけ等)役割を持って頂いている。ご利用者の生活歴や力を活かした役割・お茶・お花・野菜作り等地域の方・職員と共に生きがいにつながるよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気候に合わせて施設周辺に散歩に出かける。玄関先にて外気浴を行っている。コロナ禍で各行事が中止となり、残念ですが参加できていませんが、可能な限り、お花見やドライブなど支援しています。	日課の散歩は、効果的かつ充足感が得られる様、利用者の身体機能を考慮し、少人数に分けて複数回実施している。また、片道30分圏内を目安に、お花見やドライブといった外出支援も、月に数回実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お小遣いをお預かりしている方はいませんが、希望があれば対応はしていきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員を通じてやり取りができるよう支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共用の空間作りを心がけています。玄関のお花・絵などの気配り・テーブル椅子等の配置。ホールには季節感が出るような工夫をしています	南側に大開口窓があり、自然光が差し込み、晴天時は室内がとても明るい反面、天気変化の影響を受けやすい。その為、照明や空調機器を適切に併用しながら対応に努めている。座席配置は、利用者同士の関係性を考慮して工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席はご利用者の関係性や相性を配慮しご利用者の了承の上あらかじめ決めていますが、レク活動の時は席を移動し楽しく過ごせるように配慮しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご利用者の好みの物・使い慣れたものをご家族と相談し持参して頂いたり、居心地良く過ごせるよう工夫しています	過去に居室の引き戸開閉に不自由さを感じた利用者がいた為、現在は全居室入口に防災カーテンを取り付け、扉と併用できる様に変更している。居室には家族写真や、お祝いの色紙が多数飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして身体状態に合わせ、安全で出来る限り自立した日常生活が送れるよう支援していきます		